

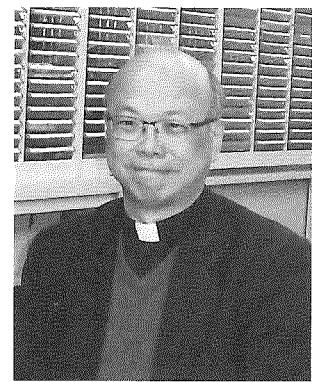
一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
 〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
 日本聖公会東京教区会館内
 3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
 TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
 http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立征三郎
 編集者 萩谷長生
 印刷所 隣イノビスコポレーション

祈禱と奉仕に徹する

房総支部チャプレン 司祭 バルナバ 田澤 利之



私の手元に贈呈された『聖徒アンデレ同胞会事典(改訂第7版)』(2018年11月24日発行)があります。新年にあたり、今一度読み返してみました。以下は、同事典を参照し、また一部引用して、私なりにまとめたものです。

BSAとは「祈禱と奉仕」を

目的とした同胞会です。青少年の間にキリストのみ国が拡張されることを願いと、日々祈り、また公会を通して青少年をキリストのもとに連れ来る奉仕に従事します。この働きは、同胞会が修道会の第3会員のような自分自身の修養を目的としたものではなく、十全な祈りを通して、一つの明確な目標を持って外へ出かけていくことを特徴としています。

この同胞会が先師として仰ぐ聖アンデレは何をしたのでしょうか。まず、自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシアに出会った」と言い、そして、シモンをイエスのところに連れて行きました(ヨハネ1:41、42)。

ポイントが2つあります。近くにいる人に、今自分が出会ったメシアを告げたということ、そして、その人をメシアのおられる所に連れていったということです。この、ある意味単純な

1つの証しと1つの行い、これが聖アンデレのなした働きです。同胞会に属する者は皆、この聖アンデレの言行と精神に倣おうと努めているということ、その奉仕は、例えば、主日礼拝に招くこと、聖書研究会に誘うこと、未知の人を温かく迎えること、病人・困窮者・誘惑と戦っている者に寄り添うということであり、それは近くにいる人をメシアに結びつける働きであり、これら平凡で単純な言行の中に、その奉仕の重要な価値を見出しているということ、その働きは、常に公会の中で、公会と共に、また公会のためになされてきたものです。

房総支部のメンバーは、BSAの理念を語ることを余りしません。が、その言行と精神は身につけておられます。その働きは現在に至るまで受け継がれて生きています。こうした地道で堅実な働きを、一言でまとめて言うならば、レイ・エバンジェリズムー信徒の伝道ーということができます。その最初がアンデレであり、以来継続して今日に至るまでその働きが自覚的になされていくということです。

ところで、原始教会以来、迫害下にあった初代教会の困難な300年間の伝道を支えたのは、このレイ・エバンジェリズムの力でした。ローマ・カリック教会が紀元6世紀にイングリッドに伝道する前に、既にケルト地方には教会や修道院が広まっていた。また、日本においては、1612年の禁教令以降、教会の命が断たれてしまったように思われた時代においても、このレイ・エバンジェ

リズムは生き残っていました。そして、太平洋戦争中の困難な時期の伝道を支えたのも信徒たちでした。

今、教会を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。コロナ禍のため、この2年間ほとんど集まって礼拝することができず、教会には若者が少なく、高齢者が数多くおられます。教会や伝道所の数が減り、統廃合が続いています。今後、聖職の数が減少していくという統計報告が出されています。宣教協働区が敷かれ、宣教体制の見直しが行われています。社会もまた混迷を深めているように思われます。明らかに順境(orientation)から逆境(disorientation)の時期に入ってきたと言えます。これまでの教会史において、逆境の時には信徒の力が必ず発揮されるといふ事に注目して失望せず、神に信頼し、ますます祈禱と奉仕の業に勤しんで参りたいと思えます。

(千葉復活教会 牧師)

公示

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会第110総会を左記のとおり開催します。

日時 2022年2月26日(土) 15時
 場所 東京教区会館3階会議室(感染予防のため変更し書面開催も考える)
 報告 2021年度事業活動報告
 議案 第1号議案2021年度会計収支決算(案)及び余剰金処分案承認の件
 第2号議案役員任期満了に伴いあらたに役員(理事・監事)選任の件

新年度事業活動計画・予算案を承認

—第109総会、書面で議決—

BSA第109総会が昨年11月27日(土)に開かれ、2022年度事業活動計画および同会計収支予算案をそれぞれ賛成多数で可決した。また、同時に2021年度事業活動の中間報告が提出され、承認された。

今回の総会は、前回同様、新型コロナウイルス感染症予防のため、書面での決議となった。会員(正・賛助・聖職)には、11月初めに総会資料と返信用はがきを送り、提出議案に対する賛否を問うた。

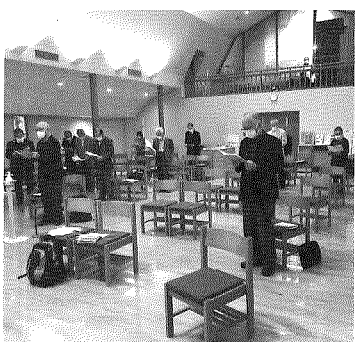
第1号議案「2022年度事業活動計画(案)」承認の件、第2号議案「2022年度会計収支予算(案)」ならびに「2020年度決算・収支計算書一部修正」の件は、いずれも賛成多数で承認された。有議決権者(正会員・定款17条)(2021年10月25日現在)187名。

2022年度の事業活動計画では、「響き合うBSAのために」というスローガンの下、2027年に創立100周年を迎えることを視野に入れ、「BSAの裾野を広げ、BSAの顕在化をはかる」、「会員一人一人を大事にする運営」等を柱に据えた。

2021年度活動中間報告

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、諸活動が活動中止のやむなきに至ったが、そうした中において、9月14日に第二期信徒叢書を3点、歴史的快挙であった。

発行予告を見た会員を始め、多くの人から予約注文が多数寄せられ、信徒叢書への期待の大きさを伺わせた。11月初めにVISION176号が会員の手元に届いてからは、全国各地の会員から注文が届いており、担当者は対応に追われた。機関紙VISIONはコロナ禍にあってもめげることなく、173、176号の4紙を発行した。特に176号は、信徒叢



なお、この1年間の新入会員は、ベテロ有村元伸兄(福岡支部・福岡聖パウロ教会)、ヨハネ植松功兄(一般会員・聖マリアレット教会)。礼拝の中で、新会員2名、逝去された会員8名の祈りが捧げられた。(理事 ダビデ吉松英美)

記念礼拝聖餐式を実施

総会は書面決議となったが、11月27日(土)午後1時から、東京教区聖アンデレ主教座聖堂で、第109総会記念感謝礼拝・再宣誓式を行った。(写真)司式は東京教区主教高橋宏幸師(BSA本部チャプレン)、説教は下条裕章司祭(本部チャプレン)が行った。出席者は18名。

第109総会を終えて

BSA会長 足立征三郎

前2回の総会同様、書面による総会を11月27日(土)付けで開催しました。議決権者187名、返信ハガキによる出席者86名、議案に対し賛成86名、返信の無い場合は返信者の多数決に一任が事前に通知されており、第1号議案・2022年度事業活動計画、第2号議案・2022年度会計収支予算案並びに2020年度会計収支決算「収支計算書」一部修正。は賛成多数で承認されました。

響きあうBSAのために

コロナ感染症拡大に伴い、教会の活動が休止状態となつてしまふBSAは、計画した諸活動を休止する状況が長く続いていました。そのような中、「信徒叢書」3巻を新たに発行、機関紙「VISION」(年4回)を休むことなく発行出来たことに對し、各担当者の努力には感謝と賛辞を伝えたいと思ひます。

BSAは、キリスト教精神に基づく「祈祷」と「奉仕」の実践をもつて社会福祉の増進と世界平和の実現に寄与することを目的としています。

1927年にBSA日本支部が創設され、2027年には百年を迎えようとしている今、多くの諸先輩が継承・実践してきた数々の諸活動を活性化していきたいと願っています。

現実には先人が実践してきた時代とは変化してきました。今、私たちができることは何か。二人が一人を」を掲げ、諸活動において積極的に行動に移しているか。信仰者の共同体、神の民である教会の中で、働き(奉仕)祈ることができているか。

3教会合併と新教会設立について

インマヌエル新生教会

サムエル 天野公成

練馬聖ガブリエル教会、東京聖マルチン教会、池袋聖公会の3教会の合併により、19年1月1日、練馬聖ガブリエル教会の地にインマヌエル新生教会が誕生した。合併後は教会の建て直しが決まり、20年10月31日起工式、21年4月10日上棟式を経て同年秋に建物は完成した。合併時に池袋聖公会は伝道所となり建築期間中は伝道所で礼拝を行っていたが、21年11月から練馬に移り新築教会で礼拝が開始された。また従来池袋聖公会で活動されていた「ビルマの祈りの集い」もインマヌエル新生教会に移り、月2回主日午後礼拝が行われている。

東京聖マルチン教会および池袋聖公会伝道所は聖別解除後に土地を売却されているが、伝道所の建物は楽器店のショールームとして活用されることになった。なお池袋聖公会で活動を行っていたBSA池袋支部は、合併に伴い支部名をインマヌエル新生教会支部に変更している。

教会合併の発端は東京聖マルチン教会の老朽化が進み話し合いを持ったことだが、合併が本格的に動き出したのは2015年に遡る。同年4月、練馬聖ガブリエル教会牧師の卓司祭が東京聖マルチン教会管理牧師に着任された後、マルチン教会とガブリエル教会による2教会合同礼拝が開始された。当時、筆者が在籍した池袋聖公会では卓司祭より3教会合併の提案を頂き、教会委員会で検討したが、その時の教会委員の反応は弱く合併はとて現実的と思えず無縁の話と結論づけていた。ただし財務委員から現状の財務状況の推

移より数年後には教会維持が困難になるとの報告があり、漠然と将来の財政不安を信徒間で共有していた。

卓司祭の提案で、16年5月15日から3教会合同礼拝が開始され、その後、池袋聖公会と東京聖マルチン教会との2教会合同礼拝も開始された。筆者は初めてマルチン教会との2教会合同礼拝に参加した時のことを今も記憶している。ピアノ伴奏で聖歌を歌ったこと、他教会チャントを聞いたこと、礼拝後食事がおいしかったことなど。マルチン教会信徒が歓迎してくれて温かい雰囲気の中で礼拝をお捧げできたことが嬉しく思えた。また3教会合同礼拝を通じて、練馬、板橋、池袋の人達を覚えて祈ることで自然と地域宣教の意識が拡大した。

17年8月、卓司祭は池袋聖公会の管理牧師に着任、3教会すべての牧師となられた。

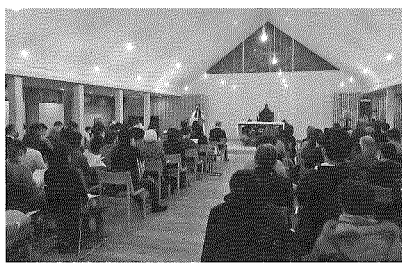
18年4月から第3以外の主日は3教会合同礼拝が行われることになり、同時期に新教会検討委員会とその配下の5つのプロジェクトチームの設置、そこで議論した内容を報告するためのニュースレターの発行と合併への具体的な準備が進められていた。

3教会信徒は話し合うたびに相互理解が進んだが、各教会の持つカラーの相違にも気づくようになり、隣りの教会を知ること、自分達の教会を知ることであると認識した。

2018年秋、3教会とも臨時堅信受領者総会を開き、第1号議案(合併・新教会設立関連)と第2号議案(新教会設立準備委員会設置)のそれぞれの議案の採決がとられた。各教会とも第1号議案、第2号議案について賛成多数で可決され3教会合併・新教会設立が決定となり、第133(定期)教区会の決議により新教会設立のため2019

年1月1日付で3教会が合併することになった。

合併前の最後のクリスマスは3教会とも単独で礼拝をお捧げし、これまでの歴史を偲んだ。建て直し後の教会は、外壁は黒色だが室内は白色と建物内外の色イメージの対比がおもしろく、2階は礼拝堂(140名収容)および会議室、1階は小チャペル、ホール、和室等がある。礼拝堂の祭壇の上に大きな三角窓があり十字架と立ち木が見えるが、その緑色が三角窓の淵に淡く映えて美しい景観をなしている。



新聖堂でのイヴ礼拝(麻田恭一兄撮影)

特別委員会報告

コロナ禍の状況が落ち着きを見せたこともあり、2020年1月以後休止となっていた「特別委員会」の動きが再開されました。理事会をはじめ、会員総会や評議員会などで出された諸課題について整理し、正会員問題など優先順位の高いものから具体的な改善提案を理事会に上申することが委員会の目的です。今後の社会状況に応じて、可能な形で委員会を継続開催し協議・検討を続けてまいります。なお、活動再開後の第3回会議(10月30日)より岩間光雄兄に代わり、松田正人兄が委員長を引き継いで任に当たっております。会員諸氏からのご意見・ご提案など随時お待ちしております。

(理事 野田 徹)

★一般ご家庭の引越し 事務所引越
★オフィスの引越
★フロアーの移動 のエキスパート!!
★各種展示会セッティング etc..

Gtec 株式会社ギンテック

港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店

CHEESE CAKE JOHANN
HOME MADE

和田博子
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ

学校業務受託、人材派遣等承ります。

株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント

http://www.rikkyo-planning.co.jp

求人・求職は

オフィスカネコ

(有料職業紹介許可 14-ユ-300917)

代表取締役 金子 眞
携 帯:090-3428-1938
E-mail: mk8391@triton.ocn.ne.jp

ビジョン広場

一年の計

今号から、新企画「ビジョン広場」を開設いたします。毎号テーマを設定し、会員の皆さんからの投稿を掲載いたします。第一回は「一年の計」。一年の計は、元旦にあり、とかいいます。

この2年間、新型コロナ禍のために思うような活動ができなかった方が多いと思います。コロナの感染拡大が、「ようやく収束」どころか、急速に広がっています。今年はどうなことをご計画でしょうか。

(理事 ダビデ吉松英美)

BSA盛岡支部一年の計

盛岡支部長 ルカ 赤坂 徹
コロナ禍で礼拝が休止状態になってから、BSA盛岡支部でも例会を休み、教会の週報、月報、教区報を郵送する時に会員へのメッセージを書いて連絡を取るようにしました。

私達の教会には婦人会、聖歌隊・オルガニスト、BSA、サーバー、イースターなどのグループがあり、イースターやクリスマス大礼拝の前に礼拝宣教連絡協議会を開催している。

感染が収束に向かうようになれば礼拝奉仕に積極的に参加し、礼拝後に感染予防に気を付けながら軽食を摂り、教会委員会報告、聖書の輪読後に学びを深めたい。

高齢や病気で礼拝を欠席された信徒にも様子を知らせる。BSAの今年1年は年齢や性別を超えて礼拝、宣教の中心的役割を果たしていきたい。

大切な日を「計」とする

福岡支部 モーセ 酒井 健
一年の計は元旦にあり、というがこれが難しい。教会暦ですでに年が変わっている。それも、クリスマスではなく、クリスマスの準備を始める日に年が

変わっている。そもそもわたしたちにとって、一月一日は主イエス命名の日である。

教会生活を送っていると、世間一般のカレンダーとは異なる感覚を持つようになる。キリスト教徒がマイノリティであるこの国では、さぞかし奇異に映ることだろう。

わたしにとって、「計」となる日はいくつもある。それは、自分にとって大切な日、その日を大切に、思いを新たにすることだ。

それぞれ思いの中で、大切な日は「計」とする。難しいことではない。一年の計は、簡単である。

「ボッチャ競技」を教会近くの住民に広げたい

南町田支部 サムエル 吉田昌夫

すこし前のパラリンピック東京大会では、身体に障害があるひとたちの目覚ましい活躍が目撃された。

大会のモットーは「失ったものを数えない、あるものを発揮せよ」というものだ。これをBSAの活動にも応用させたいものだ。考えた。この考えを南町田支部の活動に取り入れたい。

そこで、はたと思いついたのが「ボッチャ」という玉投げ競技を、近所の人の前で遊んで見せて、だんだん見物人を参加させる、仲間を作り出す(交流できる人達を作り出す)というインフォーマルな宣教活動をやってみようというところであった。

ボッチャという競技は、お手をすこし硬くして大きくしたようなボール(直径は約7cm)を、赤組が6個、青組が6個持ち、まずそれと同サイズの白い目標、ボール一個を審判員が3mほど前に投げ、次いで赤組が一個のボールを投げ、白い目標球に一番近いところに投げた組が勝ちとなる。ルールは簡単だが相手のボールをはじいて、自分の組のボールを白球に近づける戦法を

とすることもでき、投球の正確さを競うので、氷上ではない地上のカーリングとも呼ばれている。備品は安く買え、赤と青それぞれ6個の球と白い目標ボール1個があればいいので、早速購入してみた。今は真光教会の裏にある桜公園の平らな広場の一部で、皆の前でゲームをやるのを楽しみに待っているところである。(真光教会)

翻訳聖書の読み比べ
横浜支部 マツタヤ 田島利男
2021年秋までに数年をかけて、3種類の翻訳の異なる『創世記』を比較しながら読むという試みをやってみようか。

訳者が異なる言葉の解釈の違いから、異なる言葉が使われ、意味は同じでも異なった聖書が出来上がる。何度も翻訳が繰り返されている聖書の特異性を考える上での疑問の一つであった。新しい翻訳の聖書が教会で使われるようになるのを機に、福音書の比較読みを1年1巻を目標にトライしてみようかと準備を進めている。

今回は『新共同訳』とこれから使われる『聖書協会共同訳』をギリシャ語の原典と照合しながら読んでみる計画である。1年1巻はかなり無理があるかもしれないが、80を過ぎたので仕事を絞って、ゆっくり歩むのも良いかと思っている。(川崎聖パウロ教会)

一年の計「光を求めて」
市川聖マリヤ教会 テレジア 星野直子
写真家・星野道夫がこの世を旅立って25年の歳月が流れました。彼の遺した写真と文章には、極北の自然に流れる悠久の時間、そこで営まれる動物たちの生命や人々の姿がとらえられていて、その作品にはさまざまなメッセージが込められているように感じます。コロナ禍の今、この言葉が心に響きます。「長い目で見れば、人々が今

抱えている問題も、次の時代へたどり着くための、通過しなければならぬ嵐のような気もしてくる。一人の人間の一生が、まっすぐなレールの上をゴールを目指して走るものではないように、人間という種もまた、さまざまな嵐に出会い、風向きを見ながら、手さぐりで進む、ゴールの見えない航海のようなものではないだろうか。」(星野道夫著「ノーザンライン」より (賛助会員))

星野道夫写真展「悠久の時を旅する」が、神奈川県立地球市民かながわわがらぎ(あーすぶらぎ)で3月27日まで開催中、その後は全国巡回の予定。

福岡聖パウロ教会のペテロ有村元伸と申します。66歳です。昨年BSAに入会しました。私は兵庫県に生まれ、芦屋聖マルコ教会で幼児洗礼、堅信を受けました。現在は福岡で商業施設の設計を自営業でしています。

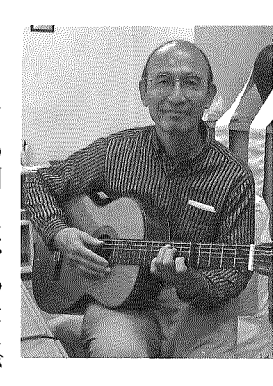


福岡支部 ペテロ有村元伸

BSAに入会しました。きっかけは大先輩の外池兄のお誘いがあったからです。台風や災害時の手助けをやって欲しいという、信仰にあまり関係のないお誘いでした。私の職業柄、家に関係する全業者を知っているからだと思えます。それは大事な事だと思いい入会することにしました。

BSAは定期的に勉強会をしており、BSAでなくても誰でも参加する事が出来、何十年間で2〜3回参加した事があります。すごく調べているなどという感想ですが、申し訳ない、何の勉強かは忘れちゃいました。よく勉強会に誘われていたのですが、仕事が本当に忙しく、いつも断っていました。

抱負ということですが、これが一番困る質問です。BSAの勉強会の準備を下さっている方々に感謝です。出来るだけ出席する事が、抱負かも知れません。こんな私ですが、どうぞ宜しくお願いします。



聖マーガレット教会 ヨハネ 植松 功

BSAとの関りは、わたしが清里で生まれたことに端を発します。端を発しますと記しながら、その端はもう長い間単なる端にとどまり、「一人が一人を」というモットーだけがその使命として記憶に残りました。

中学1年生のころでしか、清里で夏に開催されたBSAのジュニアキャンプに参加していません。内容はほとんど覚えていません。覚えていないことといえば、そこに幼友達の武藤直二君たちがいたこと、そしてキャンプの最後に聖アンデレ教会で少年部の入会式があり、そ

こでアンデレクロスのバッジをもらったこと。そのアンデレクロスもいつの間にかどこかに消えてしまいました。その後すっかり年月が経ちましたが、その間、BSA叢書はほとんど読んでいましたし、機関紙「VISION」は、考えさせられる記事が多く、できる限り目を通していました。今回会員に加えていただくことになりました。一人が一人を」という使命の原点に日々立ち返る会員でありたいと思います。

St. Luke's
会員制健康クラブ 聖路加フレンズ
☎ 03-3541-1056
受付時間 平日9:00~16:00
https://www.stlukes-friends.com/

創立の恩人 ポールラッシュ
学校法人メイウシヤマ学園
ハリウッド大学院大学
ハリウッド美容専門学校
〒106-8541 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズハリウッドプラザ
☎ 0120-083394 www.hollywood.ac.jp

ポール・ラッシュユから 受け継ぐもの(6) ポール・ラッシュユ記念館の めざすもの

記念館館長

ヨハネ 桑田秋光

ポール・ラッシュユの遺した功績、精神を語り継ぐ場として、ポール・ラッシュユ記念館は1991年にオープンしました。当初はポール・ラッシュユが最晩年に暮らした邸宅のみが公開でしたが、その後多くの方々のご寄付によって邸宅の横に「日本アメリカンフットボールの殿堂」を館内に有する資料棟を建設することが叶い、1996年春に博物館「ポール・ラッシュユ記念センター」として開館いたしました。



ポール・ラッシュユの執務室

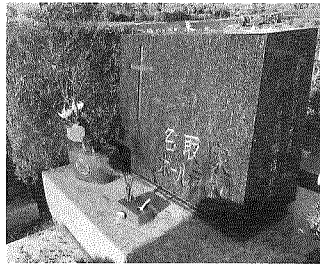
当館はポール・ラッシュユの人物顕彰館であり、同時に近現代史・地域史の歴史博物館であり、公益財団法人キープ協会の企業博物館でもあります。来館される方々に、ポール・ラッシュユが多くの困難に立ち向かいながら、いかにして多くのことを成し遂げたのか、どれほどたくさんの方と協働してきたのか、地域と後世に何を残したのかということを伝えるだけでなく、彼の偉大な精神をラッシュユ自身が望んだように次世代の若者たちに繋げるための役割を担っています。若者たちの中から、ラッシュユのように地域や世界で人々のために尽くす人が出てくるように「Do your best and it must be first class.」の精神の種を撒くのが記念館の大きな使命です。

また、資料棟を公開して25年を経て、展示内容と方法を大きくリフレッシュする時期に差し掛かっています。来館される人々の構成にも変化があり、昭和の歴史は今の若者には身近なものではなく、背景を想像すること自体が難しいものとなっていきます。同時に博物館で見せ方、滞在の仕方は変化してきました。来館された方々にラッシュユの精神をお持ち帰りいただくために、これまでの展示をより分かりやすく、保存と展示のバランスが取れたものに変えていくという、次世代に向けた工夫を考えています。

皆さまには今後とも当館の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。
(公益財団法人
キープ協会副理事長)

ポール・ラッシュユの命日

12月12日はポール・ラッシュユの命日である。1979年に82歳で亡くなってから42年目。東京都・高尾にある霊園には、生前ゆかりのあった人や彼を慕う人たちが、立教大学のアメリカンフットボールチーム・オールラッシュヤーズの監督やOB/OG会長らが訪れ、花を手向けた。



キープ協会は、12月10日(金)、山梨県・清里にある聖アンデレ教会で、小林祐二司祭の司式のもと、記念聖餐式を行った。式には、浅田豊久理事長をはじめ理事9人と職員20人が出席した。また、清里の聖アンデレ教会では、12日(日)の主日礼拝でポール・ラッシュユを追悼、改めて彼の偉業に思いをいたした。

信徒叢書のある風景(10)

書架はこうして作られた

ヨハネ 高橋恵太郎

昨年8月のある日、VISION編集委員の吉松英美さんから、信徒叢書の書架制作のいきさつを聞きたいという電話を頂きました。もうずいぶん昔のことですが、記憶も定かではありませんが、お話をさせていただきます。



私が信徒叢書の書架を本格的に作るうと思ったきっかけは、軽井沢シヨール記念礼拝堂を訪れた時であったように思います。そこには他の書籍とともに信徒叢書も陳列されていました。が、実は私はそれより少し前から、書架の試作品を作っていたように思っています。シヨール記念礼拝堂に並んでいる叢書を見て改めて「信徒叢書は本棚にまともて並べた方がいい」と思い、書架の本格的な制作に取り組みしました。

それからというもの、いくつかの書架を作り、希望する教会へ送りました。その後BSA本部からもっと多くの教会にも送りたいから、作って欲しいということになり、30基くらい作ったかと思えます。沖繩の教会にも送ったように記憶しています。わたしは、小学3年生の頃から木工制作に関心があり、父親が木工道具一式を揃えてくれたので、学校から帰ると戦慄機を作り、戦時中で学用品も十分に

手に入らない時でしたから、友だちと鉛筆や下敷きや消しゴムなどと交換し、おかげで学用品に不自由したことはありませんでした。

高校を卒業してから教会へ行くようになり、ある時、知人が亡くなり、それがきっかけで家庭祭壇も手がけるようになりました。これも30基ほど制作しましたか？しかし、やがて材料のブラック・ウオールナット(黒くるみ)や櫛の部材が入手困難となり、今は、ほとんど制作しておりません。

信徒叢書の書架のデザインは、独自のものです。下段中央に料金箱を設置し、叢書の発行点数も増えよう一段増やして現在の形状になりました。木工制作を本格的に始めたのは、会社を定年退職した62歳の時でした。児童養護施設の子どもたちが就職しても半年くらい経つと退職してしまうのを見て、木工の楽しさを知って、大工さんか建築士の道に進んでくれたらと思ひ、彼らに木工を教えるには自分の勉強が必要だと高等職業技術学校に入学しました。その後、神奈川県「芸術の森」へ通い、さらに私塾へも通って腕を磨き、今は、趣味の木工「木もれび工房」を主宰しています。

数年前まで嘱託教員として中学生の木工を教えていた時の生徒が「将来、建築士になりたい」と言って高校の建築科に入学しました。別の生徒は「大工になりたい」と言っています。こうしてわたしの初期の目的が少しずつ叶えられ、嬉しく思っています。

現在は弁当持参、車で30分ほどの工房へ毎日通っています。九月の初め、元理事の金子眞兄からも電話を頂き、「信徒叢書の書架のことで相談がある」とのことです。ちょうどVISION編集委員の吉松さんからVISION用工房の写真を見て聞いていたので、ご一緒して頂きました。

「木もれび工房」を訪ねて
理事 ダビデ吉松英美
「信徒叢書のある風景」も今回で10回を数えます。この間、取材をしながら思ったことは、信徒叢書が今日まで多くの教会や神学校、勉強会等で活用され、愛されてきた背景には、専用の書架があったからではないかということでした。

BSA顧問の倉石 昇兄は、前号の「祝辞」で、「高橋恵太郎兄考案の手作り書架を各教会に贈り、叢書の普及を図った。」と書いています。

昨年の9月のある晴れた日に、神奈川県の大磯にある高橋さんの工房を訪ねました。JR大磯駅から車で15分くらい北へ行つたところに工房はありました。



広さ13坪ほどの工房に入ると、道具類と一緒に高橋さんの作った小鳥の巣箱や木製の風鈴、十字架などがありました。信徒叢書の書架もありました。工房の中央には機械や工具が置いてあり、高橋さんが独自に作った道具もあります。材料となる木材や金具、諸道具も整理して壁際に収納してあります。最近では、腰を痛めて、立ち仕事が出来なくなり、椅子に座って仕事をなさるそうです。

昨年までは手芸家から、刺繍の枠の制作を頼まれ、作っていました。が、コロナのために教室がお休みになり、今は決まった仕事はしていないということでした。

- 87歳の高橋さんは、現在、厚木聖ヨハネ教会の信徒です。1986〜87年にBSA監事、1989〜2010年まで理事を務めたわたしたちの大先輩です。
- 大磯駅前には、エリザベスサンダースホームと聖ステパノ学園があります。
- 現在ステパノ学園の理事ですが、並行して1989〜2010年までエリザベスサンダースホームの理事も務めました。
- BSA理事会開催報告
10月25日(月) オンライン
● VISION176号について
● 信徒叢書新刊発行贈呈について
● 「特別委員会」開催予定について
- 評議員会開催について
● 2022年度事業活動計画(案) 検討
● 2022年度会計収支予算(案) 検討ほか
- 11月26日(金) オンライン
● VISION177号について
● 特別委員会報告(10月30日開催)
- 会員動向
● 入会 ヨセフ植松 功 (聖マーガレット教会)
● 逝去 フェリス井出光子 (林間聖バルナバ教会)
- 第109総会について
● 2021年度事業活動中間報告
● 第1号議案 2022年度事業活動計画(案)
- 第2号議案 2022年度会計収支予算(案) ならびに2020年度会計収支決算の一部修正
● 特別委員会設置期間延長の件 そのほか
- 12月20日(月) オンライン
● 第109総会振り返り
● 第110総会について
● 「100周年プロジェクト」について
- BSAセミナーについて
● 青少年キャンプ開催の可否ほか

第二期信徒叢書発行を振り返る

3冊の新刊を読んで

三光教会 エジチオ鈴木 一
 コロナ禍に塞がりがちな日常の憂さを吹き払って、このたびBSA信徒叢書新刊3点が刊行された。既刊18点の伝統を受け継いで、第2期刊行の第1弾として3冊刊行は慶賀の至りである。編集の御苦労に感謝しつつ一氣に読ませていただいた。

『聖書の心と茶の心』

本書はまず、中世に來日した宣教師たちが堺の商人の侘茶の席に招かれて、お茶の精神文化の重要さに気付いたところからキリスト教と茶道との出会いが始まり、以後キリスト教と茶道の結びつきが深まった歴史を説く。これに重ねて、主教御自身が5歳の頃から祖母に手を引かれてお茶のお稽古に通った生い立ちが記される。茶道では背伸びをしない・取り繕わない姿勢で、身体で覚えることを基本に、「一期一会」の出会いを大切にすることを叩き込まれた。「茶の心」の教えは教会生活の支えとなっている。お茶の文化は諸国にも有るが、「日本の茶道ゆえになせること」は「お茶を通してキリスト教、聖書の心を再発見すること」である、と説く本書の結びの言葉を心に留めた。

『ウイリアムズ主教に学ぶ』

日本聖公会の成立に中心的な役割を果たしたウイリアムズ主教(1829-1910)の業績を限なく記す。著者の逝去により講演のレジュメをそのまま編集したものが、その詳細な記述は1冊の著作に匹敵する。明治政府への「禁令撤廃への働きかけ」、「日本聖公会の組織設立」、「社会福祉事業家の支援」など、読み応えのある筆致に心を惹かれた。

『神の教会・わたしたちの教会』

「信徒の奉仕職のヴィジョン」というサブタイトルが示すように、日本聖公会の現状の中で、

地に足を付けて実行していける信徒奉事者の在り方、働き方について制度的な面と具体的面とから考察されている。「信徒使徒職」などという言葉も使われて教会刷新に取り組み海外の動向と事例を引きながら幾つかの指針を示す。「み言葉の礼拝」に取り組み教会現場での新しいテキストとして熟読・活用していきたい。

喫茶去(きつさこ)

ソフィア 水谷恵美子

教会の掲示板前であった『聖書の心と茶の心』を目にした時、思わず手に取ってしまった。心を躍らせた瞬間でした。実際、聖書と茶道という形も背景も認識が全く違う二つが共通点を持ち、繋がっていることはうすうす承知していましたが、高橋宏幸先生はまず、修道士がキリスト教を布教した歴史について紐解き、織田信長の時代より豪商の町として繁栄していった堺を中心に茶道とキリスト教を両輪として進め、お話を展開されています。

「幼き日の経験から」では長きに亘るご自身の茶道体験についてどんな生活だったかほほえましく感じることができ、同時に心のあり方、豊かな心を育んだ経験だったのでは、と想像させます。その中で「利休百首」、利休がお茶にまつわる心構えや精神を説いたものに触れ、聖書や祈禱書との共通の心を読み説いています。大切なのは「稽古」とは「より習い十を知り、十よりに返る」とのその「二期一会」に記される精神、初心に返ること。(教会問答)「教会とは」「神様を信じ、キリストに従おうとする人々の集まりである。」が定義であるが、「お茶の心を持つて集まる人々」があれば、そこには「お茶室ができる。」と茶道業跡(ぎょうてい)・家元内弟子)が説くことに「然り。」と納得が

いきます。茶道では広間に對し、四畳半や三畳など小間(こま)の茶室でお茶を点てることもあります。利休が考案し、侘茶の世界を高め完成したと伝えられ、それは狭いだけに窮屈かと思われがちです。しかし、そこには床の掛物、花入れに花一輪、茶碗をはじめ道具組・茶菓にまでも亭主の深いもてなしで季節を感じ、俗世間から遮断された世界があります。聖書の教え、箴言や福音を通して、天の神さまからの声を伝えていたのだと聖餐式にも似て心の安らぎを覚えます。表題の禪語「喫茶去」は床の掛け物にも用いられ「お茶を飲みましょうよ」と語りかけます。(柏聖アンデレ教会)

信徒叢書編集後記

理事 ダビデ吉松英美

今回発行した信徒叢書3冊のうち、わたしが担当したのは、高橋宏幸主教の『聖書の心と茶の心』であった。これは東京教区の「一粒の麦の会」で行った講話を基にしたものである。信徒叢書編集委員会では、2-3年前から新しい信徒叢書の発行を検討してきた。

BSAの総会でも新しい叢書の発行を求める声が強くなっていく。潮は満ちてきていた。第一期の信徒叢書は、16ページで統一されていた。一冊一冊を比較してみると、16ページに収めるために、1ページあたりの行数や字数を工夫していたようだ。そのため、詰まりすぎたり、文字が小さくて読みにくさを感じるものもある。

今回は、読みやすさを優先し、ページ数の統一はしなかった。



話しことばと書きことば

「聖書の心と茶の心」の編集で、最初にしたことばは、原稿量の圧縮であった。信徒叢書にするには長すぎた。著者に原稿を三分の一ほど削っていただくことから編集が始まった。

その次は、話しことばから書きことばへの変換であった。話しことばをそのまま活字にする、読みにくい。話しことばを、非文法的であつても、前後関係が乱れていても、分かり合える。顔の表情や話し方も交えて総合的に理解するので、誤解はほとんど起きない。

しかし、活字で読むときには、論理を優先して読むので、非文法的であつたり、文のつながりが切れていたりすると、つまづきことがある。そういうところでは文章が通るように手を入れていただいた。このやりとりが数回続いた。

次で行ったのは、言葉遣いの整理であった。高橋主教は普段から話し方が丁寧である。耳で聞いているときには、何の抵抗も感じないのに、活字で読むと丁寧な言い回しが邪魔になることがある。敬語もそうだ。

NHKに西澤祥平というアナウンサーがいた。わたしは福岡で2年ほど一緒に勤務したことがある。ある時、敬語の使い方が話題になった。西澤アナウンサーは、「敬語や丁寧語は、アナウンサー泣かせのひとつである」と前置きした上で、「自分」は一つのセンテンスに一つの敬語を原則にしている。主語につけるか、述語につけるか、それはその時の判断である。両方につけると過剰になる。」といった。

これを聞いて少し気が楽になったことを覚えている。このほかにも、人名や茶道の専門用語に振り仮名を振ったり、送り仮名を辞典で確認したり、見出しやページ数の付け方など他の二冊との統一を図った。

高橋主教には都合10回もの改稿をお願いした。著者の思いをどう満たすか編集者の中、わたしがもっとも腐心したのは、話しことばの雰囲気やどうやって保つかであった。完全な書き言葉にしてしまうと、話しことばの持つているリズムが失われる。新しい原稿が届くたびに、声を出して読み、リズムを確かめた。

デザインを担当してくださった田中茂朗さん(目白聖公会)からは多くの助言をいただいた。記して感謝の意を表したい。編集の要諦は、著者のメッセージを限られたページの中にどこまで盛り込むかである。印刷所に入稿する前の一週間、田中さんと連日、入念に確認し合った。時には1日に数回やりとりをした。著者には必要に応じてメールで了解をとった。

信徒叢書化の話が出てから2年、高橋主教との一人三脚であった。いつも主教の方から歩調を合わせてくださった。

最近読んだある本の著者は、その後書きで「編集者は最初の読者にして、最良の読者である」といつている。私は「聖書の心と茶の心」の最初の読者ではあつたが、最良の読者ではあつたか自信がない。

14年のプランクを埋める激励の他、「ウイリアムズ主教に学ぶ」の他、「ウイリアムズ主教に学ぶ」の他、その生涯と同師をめぐる人々(松平信久・元立教学院院長著)、「神の教会・わたしたちの教会」(加藤博道主教著)のあわせて3点を発行した。

発行にあたっては、植松誠、吉田雅人、西原廉太各主教から心温まる推薦の辞を、そして21人の主教、司祭、BSA顧問、評議員、支部長から祝辞を寄せていただいた。それらを読みながら、みなさんが新しい信徒叢書の刊行を心待ちにしてくださっていることがよく分かった。14年間のプランクを埋める

に余りある激励である。感謝とお礼を申しあげるばかりである。

VISIONの推薦文と祝辞を読んだある司祭から「VISIONは最大の賛沢をした」というのがききたい。

「信徒叢書活動は、BSAにもっともふさわしい活動である」という武藤六治主教のことばを改めて噛みしめている。一人でも多くの方に手に取っていただきたい信徒叢書をここにお届けする。

信徒叢書情報
 出足好調、信徒叢書 第二期信徒叢書が9月30日に発売されてからほぼ3ヶ月。全国の会員からの申し込みが順調で、1月17日現在、新刊各点ともに500冊を超えた。復活祭を機に今後もさらに多くの注文が期待される。

三光教会に書架設置
 11月14日高橋主教の司式で三光教会の創立記念礼拝が行われ、これを機会に書架を置いてもらうことになった。当日だけで50冊売れたとのこと。

京都の聖三一教会からは各点10冊ずつの注文をいただいた。教区会でBSA活動を周知

横浜教区教区会が11月23日(火)教区内数カ所の会場をオンラインで結んで開かれた。会場の一つ千葉復活教会では、倉石昇顧問がBSA活動を紹介した。



倉石 昇顧問

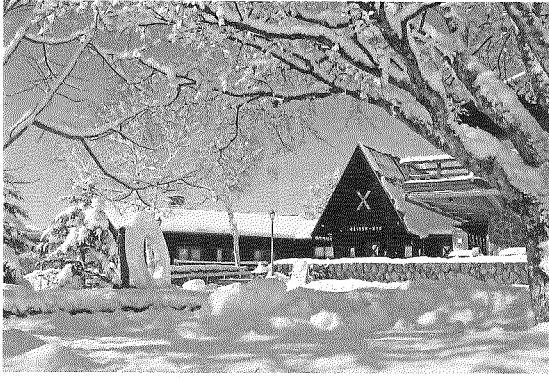
特に第二期信徒叢書の新刊の紹介と活用を要請した。

清里高原だより 清泉寮ニュース

冬の清泉寮のご案内

清泉寮のお客様から「冬が一番好き」というお声が聞かれます。この時期の八ヶ岳南麓には水分の少ない澄んだ空気が流れ込み、「八ヶ岳ブルー」と呼ばれる深い青い空が、真っ白に雪化粧した山々と見事なコントラストを彩ります。夜になれば澄みきった空に美しい星を望み、月が出ると牧草地は一面の銀世界に輝きます。冬は日没が早く、星空観察には最適です。雪が降った日の翌朝には、雪の上には鹿やキツネなど動物たちの足跡が溢れ、森の豊かな営みを感じることが出来ます。息を呑むような光景に出会えるのが冬の清泉寮なのです。

清泉寮のご予約には、季節のおすすめステイプランがおすすめです。「サンメドウズ清里スキー場 大人リフト券付プラン」等、冬を満喫する様々な宿泊プランをご用意しております。



詳細は清泉寮公式HP (www.seiryu.jp) をご確認ください。

今年の冬は清泉寮で過ごしてみませんか、暖炉の炎がゆらめく暖かいお部屋をご用意しております。

ポールラッシュユ逝去記念礼拝

2021年12月10日、清里聖アンデレ教会にて、清泉寮の創設者であり、清里開拓の父とも呼ばれる、ポール・ラッシュユ博士の逝去記念礼拝が行われました。



同日はポール・ラッシュユ博士が逝去して42年目にあたり、キープ協会の理事や職員が礼拝に参加し、キープ協会の活動を通じて日本の戦後復興に寄与したポール・ラッシュユ博士の功績に思いを馳せました。

清里聖ヨハネ保育園が認定こども園へ

清里聖ヨハネ保育園は2022年4月より「保育所型

認定こども園」への移行を計画しております。

認定こども園とは、保育園と幼稚園の両方の機能を併せ持つ教育施設のことです。保護者の就業の有無に関係なく、全ての子どもが利用できる施設です。共働き世帯の増加・少子化など、子育ての環境やニーズの大きな変化に対応するため、2006年から制度がスタートしました。

清里聖ヨハネ保育園は、北杜市内では最北に位置する認可私立保育園で、八ヶ岳南麓標高1300mの森と牧草地と溪谷などの豊かな自然環境に恵まれています。キープ協会の各部署やプロジェクトと連携し、また保護者の皆様や、地域の皆様とつながりながら、子どもも大人も育ちあえる場づくりに取り組んでいます。



清泉寮ジャージー牛ファンクラブ募集開始

1950年代、ポール・ラッシュユ博士が、高冷地でも飼育できるジャージー牛を日本で初めて清里に連れて来て以来、清泉寮ジャージー牧場では今日も元気に約120頭ものジャージー牛が八ヶ岳の麓で牧草を食べて

います。

2022年4月、公益財団法人キープ協会は公益事業として取り組んでいる高冷地酪農事業(生産・実験等)および清泉寮について、多くの方々に知っていただくべく、ジャージー牛への理解を深めていただくことを目的に、この事業を応援するための会員組織「ジャージー牛ファンクラブ」を設立。募集を開始いたしました。会員は、関係者以外の方の立ち入りを制限している清泉寮ジャージー牧場内を見学するイベントに参加でき、一定の条件下の下になります。ジャージー牛に触れ合うことが可能となります。また、年間を通じて清泉寮に格安で宿泊できるほか、清泉寮内の店舗売店での割引、オリジナルグッズの購入等様々な特典を受けることができます。年会費は(レギュラー会員1万円、プレミアム会員2万円、法人会員5万円)主にジャージー牛を飼育する農場施設の運営・維持・整備に活用されます。

清泉寮が大好きな方、ジャージー牛について知りたい方、広大な牧場でジャージー牛とお友達になりたい方、多くの方のご入会をお待ちしております。

清泉寮ジャージー牛ファンクラブ
2022年度 会員募集
お問い合わせ: ジャージー牛ファンクラブ事務局
電話: 0551-48-2626

「VISION」文芸

野田 徹

軒先に落ち葉踊るや風寒し

木枯らしやおでんを囲む掘りこたつ

小春日や友想いつつ薪を割る

雲辺 (松岡正治)

なつかしき墓石並ぶや初日出

雪溶けて机上にギデオン聖書かな

残雪や郵便物を出しに行く

牧師館覗く冬木や芝公園

リルケ読む老人一人日脚伸ば

松平謙次

怪我なくばとは嘆かず逝きし兄

胸の中なる苦しみ思う

レイイム終わりでひとりたたずみぬ

兄も通いし鈴懸の道

吉松英美

電線に椋鳥の群れ鈴なりに

「明日から冷える」と気象予報士

新企画「ビジョン広場」発足す

会員の声を集めて正月展

コロナ禍のヨルダン聾学校の子どもら想う

計報

フェイス 井出光子姉

(90歳)

(林間聖バルナバ教会)

11月15日逝去

編集後記

都心から離れたわが片田舎にも「喫茶去」という名の小奇麗なCAFÉがあり、その由来が気がかりでした。「聖書の心と茶の心」の感想文から、「喫茶去」の心こそ茶道の目指す境地であることを知りました。いつでも、どこでも、誰にでも同じ心で茶を点てる精神は、聖書の心そのものです。改めて高橋宏幸主教の書を読み返したところです。しばしオミクロンを忘れ、茶を一服啜りつつ。

(N・H)

新刊紹介

「憩いのみぎわ」

相澤牧人司祭著

聖餐式聖書日課C年の説教集「憩いのみぎわ」が新たに出版されました。入手ご希望の方は著者に直接ご連絡下さい。

(e-mail) revai@makito.org

または FAX 0557-55-7515

既刊本: 『主は牧者』(A年)、

『緑の牧場』(B年)